丹鶴叢書

草根集　四

093.1
2006
佛教大学図書館
2005494780

佛教大学図書館蔵書

草根集第四

春部

次第不同

三春　[illegible]

花盛　[illegible]

暮春　[illegible]

早春霞　[illegible]

初春山　[illegible]

待子日　[illegible]

梅薫風　[illegible]

鶯知春　[illegible]

関西大学図書館

霞

秋はまだ霞もたちぬ春の海の波のあなたに霞むなりけり

餘寒風

袖さむみ春たちぬれど霞の又ふきかへす風の寒さは

曉帰鳥

いねがてにもれぬる月の明ぬれば帰る鳥の音のみぞ聞

野若菜

春たちぬ霞の袖のおのづから引かぬる若菜摘ばかも

柳

春たちぬ柳の眉のうすゆきの霞むもの思ふ春の風

曙

花の月霞の鳥のうつろひぬ春の夜の明ぬ物思ふ

梅交松芳

ほのぼのと梅の匂ひの霞めば松の緑のうすの風

曉梅

立田山梅の匂ひの霞むなり初瀬風ゆふ日かげの春の色

松間鶯

鶯もなほ霞の中に鳴ぬ春の日の松の緑の色

海上曉霞

ほのぼのと霞の浦の朝ぼらけ春の日の光ぬ波の上

梅交松

おぼろ霞の氷ぬ春の日の光ぬ波の上

三春

春の日の光ぬ波の上

霞

春の日の光ぬ波の上

江上春月　むらさきの玉つばきさかりにほふ春の山べを出でしの月

帰鳥　天津乙女の衣をぬきかけてかつらぎ山にかへるなるらん

春駒　ちはやぶる神の社の春の日の夕のかげにあそぶ駒かな

牧春駒　もろこしの草にあそぶ駒なれば春の日のかげにまどろまぬ

賭射　なにはづのうらにみるめをかけてこそ春の日の人

春風　そよふくや春の木ぬれをとりぬるまの人のかげもかすめ

若菜　ぬさ川の風のかけはしかけてこそ春の日のかげにまどろまぬ

春やきてうらにいでしの里人のまあらはるるかげにまどろまぬ

山霞　浜中や浦にかくれてもろこしの百里霞ある紅葉の山

ちはやぶる神の社の春の日の夕のかげにまどろまぬ

あさ緑さくらの花にかくれてもろこしの百里霞ある

緑竹辨春　呉竹にまつ雪ふるもくもの色にあらはれぬ春の日

春雨　初やをくるる雪にまつ月影にもれぬ春の雨

春暁月　ゆくすゑの入佐の霞なるかりやうら佐月のまどろまぬ

おもかげの入佐の霞なるかりやうら佐月のまどろまぬ

待花　いでもをるもまのをかたくひまもあさ欲のうら雪

揺さくまをのつひもをさまるのむやうるもむ

待山花　つれなさをなにしひやちらん初桜まちの川きの山はなさけは

見初花　咲そむるをまちの光とやくれは霞もえなそへつらむ

初花　初花よたつや霞の着衣はれのこれかる乃やよひのせ

花　さきさかりもとは花はなかつ桜さくらしやまのまちの初花

咲ましふむしちらんは白雪の消をぬまとたちやうき袮む

ともにちかゝる世はさきもちりても昔の花の枝やなからむ

又そこる花もちりしは老か世の咲あひてさらに見えつらむ（小異）

山花　ふしの根よりつもりしやみなしぬもののみしまりかへん

山中花　咲つるを写すの花も吹さそはなきよそめくる山るくしく（めくりける異）

閑居花　まちさるくさ風にふかて散かる花のおとさく窓の内に

松風の吹よそて宿にたちよりしもえらし花のあたりや低からむ

花契春　暁のことしもちらし行霞さもとまらぬ心のなさ乃ちり渡らは

早春　くるまちの冬の加へし猶たえて世は今宿し霞をとえしく

咲を待むの梢よりし春は霞のうちやまちみのふるらむ

天の原あけてはるくかすむ日も光まさる世乃春るのさ哉

早春山　瀧の音ほいそく御舟のあたりてきや抗よかすみやまのさぬらん

都まてくもやそうむ朝日影の出る雪の山その朝その空

霞中春雪　春のくる霞の袖もまさきぬ山風よさみ淡雪ぞ降

霞添春色　咲も山もおかし緑のいろにそふぬ霞やこのめ春るさかえ

海　霞　ええん沼山もなる沖の浦なとふきわたる袖や霞なるらむ

あまもりの山のふもとつたかくもとりあむもとりの
浦風よりはひきそめしみやるに世をうみさるあまなりけり

帰鳥

遠くなるこゑのうつるの梅ふなるむくてをもかくるかなとの梅
風ふくに弱もいとふるたてをいとくるかるむもよりの梅

夕鶯

雪のうちのをしも春の夕のふりてをとをとをとをとをとを

残雪

もとをとをとを枝のあまをもとをとをとをとをとをとをとを
きをとをるをのをふのむしの鳥なをしをのをとをのをとをとを

帰鳥

みをちをとをゆをふをもをのをるをるをむをとをかをるをやをとを

春雪

新葉をををもををををををををををををををををををををを

雪中梅

梅ををの花をををををををををををををををををををををを

山寒花遅　梅山をををををををををををををををををををを

草漸青　をを林をををををををををををををををををををを

山路尋花　をををををををををををををををををををををを

松契多春　八をまのをををる松やをを松をを二葉をををを

山朝霞　新日新月をのをををををををををををををををを

鶯　をををををををををををををををををををををををを

朝鶯　新をををををををををををををををををををををを

暮春鐘　をををををををををををををををををををををを

数　冬　をををををををををををををををををををををを

山城のゐでちる波よ橘の実さへちりしきやまぶきのもる
山里のまだ木の下もみちもやきえぬとむる山ぶきの花

立春天
神世よや緑をそへの袖まくらたちくる春の色とみゆらん

初春天
月と日とめぐる本となりゆく年も我世のまつりまつらむ

江上霞
新日新しや霞の下風に江をこえて春のしらなみ
こゝまでやわしなり波立あしのうへも緑にかすむむさしの
あさ川の入江のさゝ波おもく霞のうちたちわたる風もさむし

朝若草
けさはまだ名のみ春の露さむくまだのまにゝまる晴てゆくなり

夕帰雁
玉章かなしみえし霜原のかたをかけてくる雁がね

山霞
山姫の春の衣のあさつまをかさねて波にたつのぞみる

春夕花
天の戸のゆふぐれかくす足引の山の端ちかくこのはなのちる
ともぬれたまにそ時は霞めども花ぞかくれぬ山風のこゑ
影よりも花のうちみをくれぬまの梢にかけて出る月かな

春曙眺望
天地よ雪をかさね花そらも神世のそらの曙の

野外春風
冬のうち川やをちめの神風にもさそはれそめてたえるらし

霞添春光
春のそらに出るは霞にあやしき川上のあさ霞この色

霞春衣
さほ姫の春の霞をおりてなくたのよりむかしの衣かな
川にもそそめしや霞にくさ山姫のせうてふらん
さそふや松山人の木の下ぎしまじ霞のころもうち川の色

江上霞
ほその海やなの古江の新霞のくもりむくまつの神風

白雪の玉つまかるよかるもしをれかしのもるる乃もるる風

澗落梅　神路風谷にのかる梅まつるるもしをのこの月そいさるる

霞障遠樹　杜とるさるる枝をそのまてこるる斗もるるの月の雲むやるこ

まるるの梢の風やさるるん雲のんしーのこるもるる

早春風　ふるまんまるるかるるるの天の雲こ戸の冪乃もる風

雨中紅梅　るるこをの浦のるも紅てれるるふる雲の乃のしる風

澤若菜　早人やワふつもるて浦のこの れもたるるよ弱るもしるる

浦よるる雲をくよるるるせくはるるるれをたつあさるる

河春月　もるるのいるるふしのおるる文て雲るぬ浦よるるく月影

園中櫻　るるのるの垣角おるせるるるをしめるる花もる雲を

海邊春夕　白雪の浦の雲の櫻るるるみるるる月乃るるるみ

浦春曙　ワるの屋雲むるるるるるる浦のるるもるるるる乃曙

春　與　彩るるぬ月のかるるるの花の宿雲の雲ひるるるるる舞

立　春　るる返しるるるるぬるるのるるるるるるるるる

ふるるるるるるるる孔も花をぬやるるるつ孔るるるるのるるる

かるるむるる屋立るるるのるるるるるるるるるるる

山春曙　浦るるるるむるるるるるる花もるるるる月もなるるる

かるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

白雪のかるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

喚子鳥　巣をるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

霞添山色　[illegible]

躑躅　[illegible]

春月　[illegible]

孤島霞　[illegible]

沼邊雉　[illegible]

野逕雉　[illegible]

春夕　[illegible]

早蕨　[illegible]

落花　[illegible]

春夕鶯　[illegible]

桃花　[illegible]

沢邊春駒　[illegible]

春駒　[illegible]

春動物　[illegible]

残春少　[illegible]

名所藤　[illegible]

橋下藤　山ぶきの[illegible]

路藤　いつとても[illegible]

藤埋松　[illegible]

霞　[illegible]

尋花　[illegible]

霞　[illegible]

夕春雨　[illegible]

梅交松　[illegible]

立春　[illegible]

海邊霞　[illegible]

立春　[illegible]

春江　[illegible]

春鳥　[illegible]

春虫　[illegible]

春朝　[illegible]

春天象　[illegible]

春植物　[illegible]

花形見　[illegible]

花下送日　[illegible]

名所花　[illegible]

老栽花　[illegible]

栽花　[illegible]

深夜花　[illegible]

落花薫　[illegible]

梅移水　[illegible]

梅花久芳　咲梅も枯て年との數をくるをそこの友ゝまされる

暮春藤　夜浪のかるる岸をとうてとよとまりかくこうてるもこのゆし

暮春槁　うしまのもまり酌ゆつちうちもしかのおれかしし

暮春江　日数なくふるかのもの一本の一枝はるも受にくるまもの

初春　天くへむしの芦のもとをとを返ゝ文ゝまるもはかよりう

湖邊霞　ちのうゝやうるめなるゝ片よ磯かつむ遥のの社も春むもふ

春さへ雨は沙ゝのふと風のるやはのまの社なうぬまみ

初春　秋のほとのつゝきのもまるゝハ谷と改くまやさぬらむ

鶯告春朝　芦もまもゝいて初ん鶯の内よ初くの初へのうゝふへの名

梅蕾得客　匂ひとふくる人を我ゝるとおるゝぬやはのうゝのゝつひ

松色春久　松のえハ四のゝゝきものもまるゝいるまのくてよきへぬらすう

春日さへ緑やもみち松のもの色よゝ初のをそをされる

押小煙　うちゝ芦を四年の松もゆるをゝきうもゝぬ霧のやけ原

水郷柳　柳もをぬ岸の柳の霧ゝうむうやかゝ宇治のもゝ姫

川さゝや柳の浪も井春ゝ色をもむゝみのようかのこのこも

柳辨春　日彩さへ一本柳をそをひくかのうゝまをまの四ゝの彩ゝも

春雪　天津風ゝくもををめゝへやものつへの狭なるゝむ

瀧上櫻　芦ゝ初のなをの白法いをめゝをまにあるかる花よまらん

山路春曙　本やハむゝもゝ四秋く春ふゝをゝるのゝやまもち

岡春草　松ゝ初のゝのやゝのをまのうう杜風ちるゝ昌の下まを

山霞　[illegible]

遠村霞　[illegible]

三春　[illegible]

湖朝霞　[illegible]

山花未遍　[illegible]

関路花見花　[illegible]

海帰鳥　[illegible]

湖帰鳥　[illegible]

遠村柳　[illegible]

柳垂絲　[illegible]

春山田　[illegible]

蛙聲出　[illegible]

夕蛙　[illegible]

山家春雉　[illegible]

野外雉　なる子を思ふくさ秋ならて深やまの野へを深むらむ

岡雉　子をおもふ岡のさゝ原こゑすなり誰かきゝつゝなくなくすらむ

雉　子を思ふ心のやところの下蕨折てかへるさに子を思ふらむ

苗代蛙　牧しらぬ子ハかへりても苗代の水のあはれむかはつなくなり

かはらなく雉のこゑこれ玉にき出る水のたのもしろ

朝菫　つむしをしるもとのきくれくさきさくつのこれのこる朝露

春山松　山路ゆく夕の嵐松にまた花をもとめしる雲の宿

田家春雨　是そくる田の面に花を俟おもて手ひきて帰る人の家

朝山霞　朝風の嶺よき霞むもさらぬ山桜いつまてしら雲

のほる日の光をもみて見引の山もうるくかすむ空の朝

夕雲雀　山本の夕のけしきを吹風におく雲雀もたつむらもなし

月前霞　ぬれやまし霞の袖にうつりつる影あはれなる夜の三日月

暁月春静　残る夜の影もかすみに花なきみねの空に暁の月

谷帰雁　くちなしに花をもる籬に帰る名残もとめぬ谷のうもれ木

帰雁成字　書てみる雲のつらよなにかしかのもの字やかくかへるなる

遠帰雁　むかしたにきこゆる峯の浪にもて消てしまふ雁かへるらむ

さむしの霞の袖にはるゝ春のおつるやさゆるなる人の旅

初春松　くるものたの森の松に吹かせを春のしめゆく謡ふこゝろむ

霞春衣　霞むなの松浦のおきのかけ衣唐士人やたちのきぬらむ

さほひめの衣の玉を見とく霞の中にかゝる日の影

かすみつまとハたゝぬのあくるあさ衣ふうゝ風そふく

花初開　白雪もの下もしもきさ日にのつとてひるまものやまの紫

夕山花　夕附るはるもおゝ山の松のさハ法のれさゆる花のちさ風

山家花　山里ハもゝよもしたそのつさ世のうさゝらのもちの夕かせ

落花　さくらもちるふさゝゝぬ風ふし歌世のまをうさて作ん

苗代　うためや嵐のまの松のもゝ立ての世のうしをとゝしらすゝ

ゝさもの花ゝうゝ抜ハ咲ゝもるなゝふくゝも風やうゝゝむ

ゝ作ゝゝなゝをもゝあゝあゝゝゝゝかゝゝゝゝもの苗代

棒ういゝのみゝめうゝゝく作ゝく小田ハ鳥もゝのゝゝゝ

神系ゝもゝゝあゝゝのゝゝ山ゝゝやうゝゝゝものゝゝゝ

野雲雀　ゆゝゝの床ゝゝ草ゝをあゝゝ詩のゝものゝゝゝやゝゝあゝゝ

妻ゝあゝゆゝゝゝのゝゝみ伊のゝゝめゝゝゝゝふくゝゝゝゝゝゝ

野逕雲雀　玉ゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

摘花　大ゝゝ川花のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

月前花　おのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

終日對花　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

三春　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

閑路霞　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

海路霞　まつかぜうらさびぬ舟の路の名玉もとえ出くかすみ浦の

野外残雪　かすみの浦きる稲ハ波のうへのあさぼらけ白きもの沫を

曙春雨　嵐の松ふる雨さぶるまもなくてもの思ふ春の夕

浦春曙　ゆふ日出の海むこふる延ふくるふるのうつ日のもとの明

春のうつ島　春ゆくとなくやむ山けぶりの立

行路梅　神のうつ梅ふるこるほのぼのの色きもとの春

浦春月　うしほやく延ふたつさ海ハ月と朝よおれせさ海ん

花春友　きをこ花ハ姿もかうしるとやりの友ときさ浦

庭上落花　梅むちの白和のみの色ふりかさまるうとさの宿

島　花　ふるとも又神世のもやうとて神くものこうまの花とむ五本

折　花　をれつるさ梅のえうとていく花ぬるまハかるえ枝

朝落花　もまなる家の彩るに松ふ系のみえて古よちる梅系

花随風　嵐のこのやみのうつをハ見よもむさて花ともを拾く

山春月　春梅のなをいちて梅むさてれやきをのを風

旅宿帰雁　きの秋ハ彩のもの上のあやこうしく嘉む月の嵐

名所春曙　ゆうまうあまーハのきのむなきちよ嘉むもかえのふ

古寺春雨　春の色をゆくもをつ生きるおる八をやゆさくもむ

原雲雀　[illegible]

夕雲雀　夕やけ雲ちりそめていとゞ高くなる雲やゝ引しなびかせる萩の焼原

澤春雉　[illegible]

[illegible]

樹陰躑躅　[illegible]

名所藤　[illegible]

松上藤　[illegible]

古寺藤　寺うちも雪かとまがふ[illegible]

池上藤　[illegible]

紫藤　[illegible]

歎冬散　[illegible]

暮春雨　[illegible]

暮春雲　[illegible]

暮春曉月　[illegible]

三春水　[illegible]

三月盡　やよひのつきをとうけまはるとやくもの又まもるらん
霞中月　あさぼらけ霞の海のしまかくれ霞ぬものよの月
　　星ぬらす霞の中のよるの月その名をつむ月の井
濱帰鳥　おとはやく久しかるべしの谷をとしとふる鶯
帰鳥出　霞ぬるとみるはるの天のまそのよるのうぐいす
花白　雪のしらんなめて梅ぬかりの花雪白の梅
翫花　あくまでも花をくしき玉堂のあけしなる山さくら
　　思ふもとぬ雪のものもあるぬをやをもをもん
杣花　まさきのかづらの人はとをかるる法さへ花のあぬの杣人

嶺上花　雪ぬ法さ花のあるうの入まるよ嶺の梅ぬるもるる乃山てら
花浮水　雨の日ハ波やうにしまのうのまさこにおるる花のこれきも
遊糸　きこれつむまるこ人もいそらしものぬるよ思ぬ梅よ糸
春日遅　あるまの雲ほもをぬぬ人類春日のいなつまろうそ
　　きの日のまさ出ぬまの秋なるハうさふく彩よ入あしの日
湊帰雁　ひの海やこれとのものあるこ小田よ夕法ぬさ人をもれぬる
帰雁漸稀　ともあまぬ世るの乃るの雪ぬ海よ沿るてかるとあぬやちさん
杜間藤　雪ぬちる梢の夜ハ法ぬさくあ原なるぬかるとのさ多
春獣　夕まるさ世界の牛ハあ西ぬさてかをめるるよ多人もかし
暮春獣　ぬしつまの大山よなくさるのまるるちるさ夕くれの雨

三月盡朝　霞
早春霞
浦　霞
落　梅
霞初聳
霞隔浦
遠帰鳥
梅遠薫

河岸柳
草庵春雨
椿葉春久
花　霞
古寺花
花僅閑
獨見花
花如雪
竹間花
花下忘帰

磯花　くれかをもむもかるとの磯まくらねてのあけぬの花をうる迄

暮山花　うら根こしかるの夕日かげ清く掛るまくらのそこの水

雨後花　あらかつ雨の名残の花の雪ほしかねも風やいとまむ　袖一本

春日　花のうに空ちらす雲もの日の出てまむく風ハゆるくて

惜帰雁　もの思まて二つに雲ちる歌のこゆるそこもむ

田帰鳥　数こよたくも移ちくかく衣きそこの国るよ雲ハ天の

初春霞　をもあこうたをぬ雲ハ袖ふるやなよ山のもるのさ衣

霞　類

霞隠村　満類一本

やまこ川ちとしくもをの雲ハ袖るものむこやま

曙花　掛むまに移なるもをおきて世こそ雲れぬ月のそら

手根

春曙　山風も花の雲ハこ移のそをおこしてもるの月のこ花

雨後花　ちこぬまも青葉なちもるる花のえのそおころて時るの

花鏡　掛雲ハかこ神世やもも又こ花のうみとなるこ袖めこん

山梨花　ワこの系ナ世こ三社ハ山なこのむこやいこん掛きこ二ら

春月出　こ人もあこ人ハ世をぬ月の雲るこあやむく世の雲むこハ人

樵路早蕨　下こ三ひおこる彩こ折こく花こやもこ三ふこる乃ち人

羇旅暮春　旅のもこを行こそこ三ひていさ行つまこんこの雲ハこ

山家春残　ひもも家ハ雲こ三ま彩ままて雲こ雲て山雲のむ

晩霞　雲ワこるまこふまのこ三れのこる雲やこんかこ人ら雲

松有佳色　春類一本

ろ緑こてこ松の下海も雲こ三ぬこのまこ三つ

湊畔霞　あまのすむ霞の社のすぎ江はるさし舟のつたのも

漸待花　さくらかさまつはの山桜枝をゝりやもむもいそこの春下

杜花　はるさてのんの花のまよこゆる四月の杜の桜木

花浪（根一本）　なるの海のなさの桜花も松よかてる白波もみあくそ

花便　以風そちこいやうしよ思へこもめたて海のたよりかん

花浪　石吉る波なさ花をかさしても松あくそるもの浪

落花風　ふをしめてもよそよ秋の衣ハあるよもあぬもの山風

（ウケ実）

ちるよあるとゝゝ春しゝ花さそよ風のんのまのつきはし

ゝやふそちるとゝさんもハ松あるぬさらけもの山色

曉帰鳥　早苗も杜さゝゝて天河のゝゝれ時よかてるあゝゝり孫

（八実）

田若菜　ゝゝ秋のゝさ田なゝをハ弱ゝもものゝるかもたえやもえもむ

摘若菜　みすゝ野をたつやゝをゝ人九重の野のかもワなな摘ゝゝ

早春朝　ゝる新のなゝゝの氷をもとゝやゝ春よおつる新霞

曉霞　五ゝの月出ゝゝゝ春の秋のよ里も山も霞むゝゝゝ礼

花春友　花ぬきハいよよ春ハをさゝもものゝやもゝ花なるもゝゝ

花未飽　詠て春ゝよむゝ山のゝよりよゝをゝ花やゝるゝ春

花半落　ゝ桜ゝゝゝもワ一ゝ花のゝゝをも梢もおなゝさかりを

山花随風　枝なゝゝゝまハゝゝ桜ゝゝ山桜ゝゝりまゝゝとゝのゝる波

春陽已闌　ゝるのかてゝ山海のゝゝさゝてゝゝものゝゝ花をゝ花よ桜ゝ

（ゝ実）

雪中早春　かゝゝゝゝゝ春のゝゝゝゝゝゝゝゝ氷ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

霞遠山衣　かすみしもたちきる江戸の遠山やうすき袖の山路の衣

水郷朝霞　ふけよるかすみやこめん遠山かすむ江の志賀の浦波

依梅待人　袖かけてまつ人のこゝろも香にかをる梅の風なくとも

夜帰雁　ちかくよく秋なつかしくもかへれとや野の路をかりの毛衣

花　見るもなほ花にうき世に宿りして風待つ花の本の露を

橋下花　花その木のもとの浪風たえて匂ひつゝむ中川のはし

花添春月　花あかくみしは霞のはなあかく春の夜の月ともみえて

花雪　咲きしものゝ花の散りての衣とやいとも霞乃たちおほふらむ

初春　住よしの浪のまさこをこゆくとも光をそふる玉津島山

海路霞　よその原山をあてにまかるもかすみて越ゆるなみの舟人

芳樹

遠山霞　くれはしくなひく霞やへたてゝも猶こそ二上の山

路梅　ぬきつゝ行くての梅の匂ひはありてもしらぬ袖乃まちさめ

春洞霞　流水きよしのゝ山の苔の洞霞あまり法の中つ峰にのこれる（のこれる歟）

帰雁遠　さか雁の雲井の眉の影も霞よく胡やうらみて帰る人の子（え歟）

花雲　花さかり世は春ならへて雲にあひて雲まよふまて天つ空より

雨中落花　雨とふる雪と世にちる花もその雨にて果るさまその花かな、

深山花稀　えしも多き袖ほくらくの奥山はそれなりはかなやとこの山への花（本ノ）

（莫ナレ）きるく里は　松まつ川お山のまさきてまちく里は花るやまあつまていらむ（一本）

寄花歎　むすくもあるはいんやうき数の花にほころひんためにまさてちる

独見春月　うたゝねの袖に上月のかけにより人こそしらね猶もこの夜の夢

春月　月かゝゝあるもさこそはとてあはれなる名さての花の陰をいとゝ月花ようつるまもなくおくてもとめるこゝろを

花鏡　玉匣あけくれてみゝ桜さくまをゝるのを待つの陰る

花手向　毎人ゝもやぬさみ重ゝ風ふのこゝろの陰ゝ花さうかも

歎冬　陰つゝてくれゝもの心ゝ（八葉一本）もたゝちまをうゝてゝこゝろん

霞障村（満葉一本）　大和路や里ゝとゝもの村ゝもあうゝこゝ雲あゝもゝ

翫花　咲旬ゝ花のまゝの新ゝう和ゝうゝもゝ月ゝ雲ゝて

苗代蛙　なく堤ゝをゝうゝてかゝてゝ徒をゝゝたゝ孫ゝの苗代

古屋春雨　ふるゝ園のあゝまゝふゝもゝのゝもかゝゝ神の月のけ

田家花　春のゝゝをゝゝゝゝあゝゝゝゝゝゝゝゝ小田の仮屋

霞始聳　四方ゝゝ雲ゝもゝゝなゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝん

田雲雀　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（小葉）

朝霞　氷ゝゝ名ゝゝ雲ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

花盛　ゝゝ朝ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

桃花如錦（曝本）　花ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

濱春月　いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（も一本）

崎花　桜ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

残花　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

夕春月　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

残春日少　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

初春霞　ものくるる雲ぬきやうよりそうあや天の岩戸あるらむ
野雉　桜ちるかすの原より立雉の羽風もまだ花ものこりて
春月　たちこめる霞のこの天の原四方八方にまやるのこもむ
霞障行舟　彩ほのぼのとおきの舟のほのぼのと霞の海の舟のしらみ
澤若菜　里人もまるしきやハ橋のあるれ汐よるまを摘んん
野宿梅　きこふきーちのやあまきくま遊ぶもく風ハ梅うまきまる
水邊藤　岩ときえくおれき沼もこるの流まきに咲る藤ふ
月前落花　桜ちるこうしかくふる秋うり光をこえて出る月のて
江上暮春　かちんのつるうもそもぬるぬ汐ぬ沼くもかくるまく
春ハやなきあ汐よ住るのこハ岸よーぬぬ海もうし

花如雪　月彩よも清ぬを花と狩やうん風よ友まつ雪の木のかく
三春　おーなくく雪まるうれ海ちもこれるう時ともやこくむ
水郷若菜　こーをも松のたつこちるそれさ八十氏人もるふ摘らん
春月　光くこる負てこうの月の新秋ありもこ雪むまく
花下忘帰　弱年くこ雪と花をこつのこの浦為うこの岸をやへよもむ
歎冬露深　ちるまにあるこやこ雪ハ狩よまのをーるこるしふこのこ
旅行花　日数ふる紀れのもの海のもよの花おるこ人狩こ雪ふるれる
戸外春風　風ま雪よをちつほひく彩戸ハの日新をこみ梅ここる
苗代蛙　みこよ住石のこふ立こく苗代のふ雪のまこまく蛙ふ
山寒花遅　山川も氷るこもこくやこて花よかこる風のここみ

歸雁成字　春の日のかすみのなかをなきてゆくかりの行方をたれかしるらん

花春友　春ごとに花はさきてはちるとしのおなじ心をたれかしるらん

喚子鳥　いとどやうきせの人をとうとてるとりの子をまねくらん

春淡月　しらの海やをぶきおろす山風にあまてもつむこぶねの月

尋花　山桜をつゝ衣なつるはるの花のをもむきを神のまもるこの春

花形見　はしおくものゝかをにそまぬるかのうつりをきてはなの

名所鶯　宿もいとやいそぎよりはるの花のやどをとうぐいす乃中宿

田蛙　あたりの山田のゐにをみるかはつやはるのもとをいるかはむ

紫藤　さゝなみのをとゝ時やをつゝまはまをこの秋とをるらん

春草短　はるををしみまくをしらぬかをのかをのをとをつ

歸雁　雁はいまは葛葉もたへまをつゝ秋風の行へはるやをものをるかり

林下巖　ををゝまくもはるの山ゐををとんはるををるのをさをゝ

路早巖　うゝろひ山路の菊はをのををゝををるををはをさをゝ

遠山春月　夕霞月のゝみのゝをるやをゝ山をるのををのををるゝ

早春霞　ををををの山のをゝをふををのををゝををををゝ

残春少　はるをの多月をゝをの系弱にのをるゝはををゝ山のをゝ月

草漸青　をををのをの花ををををゝ系ををゝをゝをゝをゝをををの孔

濱春月　ををゝ風ををゝ清くの白波よ寒ををゝをを宿る月影

初春霞　ををををゝをのをゝ風ゝをゝけ寒のをくのををの孔月

霞春衣　神をゝく梅ををゝ花をなをかををゝ花のををのをを衣

苗代　はつてやる苗代の苗代に春ふる雨の新もゆるも
花欲移　雨風よ人あるをくるものをうつろふんよやはいろん
憐霞　霞（類ナレ）ふんもの霞よはをうはちぬ雲ふよをやまをん
三月三日　まもちのやはをのふれのこをうをたるるのをを盃
折藤　をおつををしてゆん夏はをあををふ花のををやをん
春露　ををををやるるをの花の露はをもむりしの風
春雞（類ナレ）　いのををやをををのをむをるのをの上をををふをの花
簾外草　をををををれをるをの日の霞をるをををる草
欵冬　咲しらぬ巖の上の白をやうつをふをのやまをふをの花
水邊藤　月もはも雲やはをんやをのををををををふをの夏花

暮春鐘　んをををあをつををかをもをあをををるしをををれをやりんをををん
曉霞　たの中をあををををあをしををの衣をを雲の春ををををを春
岡若菜　かをををるををのををの枯ををををををををををををををををを
子日松　をををふををのををの日をををんををををて松ををををの初をを

正月一日乙巳甲子の日あを

船中暮春　をををを形をれををををを三れ貝をををををををの毋人
蛙聲出　をのをを蛙のなをを山川の形のなる浪のをををををを
殘雪　松のをの雪ハ春をを白風のををゆるやはるををのしをを菜
對花思昔　我をををを昔の恋のをををををハをををををふかをる涙あを
春月出殘　りをの山のををを月春新月ををををふのをる月弐

野外春駒　[illegible]

落花　[illegible]

池上藤　[illegible]

春天象　[illegible]

花櫻　[illegible]

惜花　[illegible]

田若菜　[illegible]

梅移袖　[illegible]

夏部

次第不同

五月雨晴　[illegible]

行路夏草　[illegible]

夏艸　深爽　[illegible]

五月蟬　[illegible]

蛍　山ぢのそもしほ木の松川よりのぼりもせぬ水ぞほたるかな

夕立雲（村夕立雲）　そもしほとそよまぬくさぐさふのくり田のむらの夕立の雲

浦夜月　浦づたら月も涼しき夕露よ夜やこめぞ風そ吹く

夜木雨　雨をそるむ樹よ夜るもむ一の人乃独のしぢそて

首夏衣　さむぬさハ打ぬるまてたちくぬ苔のそよ夜て来よりう

夜滝　石きるなきの白ぬきかるのくやさきるをと乃そう

盧橘風　以風のめきぬ人の独の遠かくそみそを乃のきもむ

薄暮水雞　時のやそもちて夕まそさきを門くくみのみそる

首夏　多人のみ月の独も掛その神さひみるもつたろもら

五月雨　うる鈴よふきうをしぢ（の奥）ぬさうれよ流く夜るつの白雲

夏　萩　七夕のあさ露ふりしきくひろのくもるるそ夕そうくの

更衣　思ふそふふ新ぬさかくもの色をうつくんもきぬ花ふ

新樹　みるの青柳の山のそそきおなしとそ夜る樹て

卯花　夜ふくもまさ三日の月ハうのむの明る光そ月ハ時れる

郭公　ほとそ夜神ぬこえのそ一夜ふくあそ世て出ぬ山乃

餘花　うのむの木の下思ふ夕月萩を花ふ夜ふ夜ふ夜ふ

山橘　花そ夜ふ一枝をうのうつをうやそ

盧橘　むりをやなそもおさん橘の白まうの法人の独

菖蒲　ふき挿しあやめのかそおくそ白ハおぬ新の下風

夏月　夜ちうふく月ふるそ新よそ立くそそそもみし

そのまゝにほさしや竿につきの絃にハ月もむすばぬ綱ぞあやふき

鵜川　鵜舟よもかゞりやハ秋つげまがふる程たる波に夜川立けむ

照射　さつきやみの上毛の星のくらくてもともしにまよふ鹿ぞかなしき

夕水鶏　夕まくれ入江にかゝる舟をさへたゝくやいつよりこみの水鶏なる

夜蛍　まよひこしくらやみもさやかにやるゝの蛍の影をおひてらむ

或本ニ第二字蛍ノ字ヲ入ルヽ

団扇　たゝふらん雲まる月をまねくなる風やかへさでもたらす涼しさ

団のうちの白き扇やさらんもまゝ蛍のをゆるちかひ

手なれし世ハ扇やのさ遊ちりも閑し扇や人の辨なるらん

池上蓮　去年を花くハ何のまことにむ花も実も同し咲ちる池の蓮葉

夕立　枝のはに吹く風のかよひもなくこえのまくれにそふゆふだち

氷室　山風のたえぬ涼し松の陰水のこほるむ路の戸口を

里樗　咲むの枝をかさねるあつさハ立まさる里人ハまつる樗

垣夕貞　かきこゆる岸よするあるの消ぬも咲る夕顔の花

杜蝉　山風も涼しく落る日くらしの鳴音にゆつる杜の蝉
池一本　の葉

納涼　袖涼しむすふ泉に風たちてさやる山のすそかけ

樹陰夏風　百年の枝も夜ハせまくてむらさきのかちの木の下風
詐奕

夏夜短　夜をかりよとみる坂の名をすまらすみれ咲るよそふ

夏夜夢　夏の夜の夢のまくらの川浪ハ袖よ涼しき涼之辛て

更衣　白妙よかへるをみても墨染の袖のまだかる夜をちぎる

郭公　村鳥たゝや陰の袖にめ小木ゝの若葉やこゝよ鳴くも

[illegible]

卯花　[illegible]

早苗　[illegible]

[illegible]

盧橘　[illegible]

對橘尚昔　[illegible]

葵掛簾　[illegible]

五月雨　[illegible]

[illegible]

風前夏艸　[illegible]

夏月　[illegible]

鶉川　[illegible]

曉更照射　[illegible]

蚊遣火　かやたくとゆきふるまの烟さへやこゝろ焦しき袖のうへ

隣瞿麦　袖ぬれしたくるこゝろをとゝ坊ゝよとゝ屋のあてこの花

夕氷雛　杉風も岩つくくあ坂の山のそくしくあ鶴なくもあて

夕　螢　消てゝ新なき秋の夕雲ハ口つ反むしのとゝ星ゝ孔

団　扇　あまてゝる国の扇のそゝまる月をかゝふよゝの村やゝ

る月もちゝき扇を反のゝ国ゝもをとあつめてゝる

山のもふゝさし出ぬ孔ゝふゝさも風ぬるゝぬ袖やの新雪

池上蓮　ゝ月ゝゝるゝもゝ孔の花の雪沢のくゝもゝるゝとゝ孔

ふる雨ゝゝるやゝむゝゝゝくゝあつめてゝゝ孔沢の芦葉

夕　立　玉やの新もの雲もかゝるゝてむゝ袖ゝるゝまる夕立乃雨

山雲のその竹系川ゝをゝゝ系ゝゝゝゝゝゝゝたちの風

朝氷室　氷室ゝなせき合氷の新氷さゆるゝゝのふゝくなるゝゝむ

卵のまゝ故のつゝに袖ぬまぬ氷や夏の野力ゝふるゝん

室ゝゝ孔新のまふもかつゝゝゝゝゝつゝぬ六月のゝゝ

垣夕顔　板ゝゝる露ゝゝ冷ゝ袖ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

夕新の花の枝ゝゝゝ新ゝゝゝゝゝゝ扇ゝゝゝゝ孔月新

ゆゝの花のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

山裏蟬声　ゝゝゝゝ情をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

山泉忘夏　六月や山のゝゝゝゝゝふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

深山泉　岩かくれ流るる山の泉のすゑはいづくにかとまれる

納涼　とりて出るおきて涼きを岩枕はらへと袖のうちはらはせく

水邊納涼　そこ本　うかるる清く涼きをの袖もをしぶつきの中川のあ

松風近秋　夏ぬぬるるをもてまれ礼社やうてをやとりあるなるる杉せ

首夏雨　類ナシ　久世橋のをまきかくせ菖のそくはきこぬ社をまつ風そんん

待郭公　神山やあ月のをしもしたあのゆ一くの雨よ旬よさのさ家

久待郭公　まもへぬまつよんいこのくくもをもきほくこくいのれ

聞時鳥　きこ杉をくをとるみ雨のしほくこくいるふんを

聞時鳥　あををくくのりまるをおをくゆつる数もくやーき

時鳥もの雨くふ必なるをいる中きやてこのるゆ葉一

遠山新樹　入るのあふをきをくこれ春るんるを泉流るるこの孫ふ

民戸早苗　袖をるを早苗とつこ日ハくれぬ小田のくるめやあををるん

あををぬよこやよをもをのるを苗をうつる屋の袖のをるまを

さ人の小屋のをるふあををよう早苗をるまの雨のををふ

靈橋露　をををあ花橋ををく袖の涙のををく露こるるもむ

靈橋風　くるをの天つををめの袖ををく雲風ふ旬をたちをを

苅菖蒲　くををやぬまのあやめも刈をの彩端ををぬ袖をはんん

五月雨晴　さされはむくやいくくをを秋の小をあるを早をの新ふ

五月雨のををみぬをやあくくををを袖をあをををを早ふこんん

河五月雨　[illegible]

行路夏草　[illegible]

夏草深　[illegible]

水上夏月　[illegible]

瀬鶏川　[illegible]

暁鶏川　[illegible]

照射　[illegible]

鶏川笛　[illegible]

蛍火透簾　[illegible]

閨中扇風　[illegible]

蓮　[illegible]

夕立　[illegible]

杜樗　[illegible]

疎屋夕顔　[illegible]

名所氷室　いつの世よりかはるとはなきさかりをも氷室にかけまくは
　　はるばるゆる氷室の川風にはるの山田もみえそめにけり
瀧上蝉　瀧のうへの塔の羽えにおりあまりしられにしなるたつ糸
山　蝉　はるかやはるの影の清く塔のうへの尾をうつる夕くれの山
泉夏栖　ゆかはうつる清みの秋をよせこしたつ枝のもとの清水
夏沼菱　夏ふかき沼のあつく照る日のみなそこのえをつしなれ
水邊納涼　ふるのあやの袖にたにの清むすに夏人涼おきつ島の
家納涼　いつくにかはてに涼き風のよもやもたもやしおなり山の
松風忘夏　六月や宿るの日影の山のものまるるまの川の勢のおく
行路夏衣　たちさりの紅葉をくる夏衣ぬるるとにて秋風の

夏　秡　ゆかりてをなるとにてはるの秡川あさの紅葉夏やはらん
　　をかりてをなるとにてはるの秡川はるのつくる麻のゆかりて
和荒秡　もらぬきしものをちかきてむすはるの又めてくる秋やはらん
夏　雲　はるの日のたにの雲のこもるをおくの夏をはるてくるの雲
夏　露　はるのやはるにはるのふるにしもの秋のあまの川袖のたにの
夏水風　もらくはるさの清をとてくの夏の秡のあのとうつ庭のまつ風
夏樹鳥　時鳥又こえはるなるとにたるおのるさ月乃秡のもとの鳥
夏山雲　夕雲のたにぬるの山の雲秡のうのるしをゆるのたにむ
夏夜待風　うる夜のつくの涼きうたの秡の風のをせ中川乃やの
夏　風　夏をなるこはやまくの山のの秡をたつるてはる一雲のる

夏雲　白妙の空の雲のさゝなむ　[illegible]

夏雨　ふるぬまも見る五月のあまつゆ　[illegible]

夏河風　夫のごとく波ちるせく梓ういこの[illegible]

夏駒　市牧ゆかるまゆひくいこまのあせも[illegible]

夏里竹　里にあるせぬ竹のこのゆふ[illegible]

夏鳥　夜川の波[illegible]

夏澤　夏ゆき[illegible]

首夏藤　夜[illegible]

路卯花　[illegible]

郭公

郭公遍　[illegible]

新樹　[illegible]

山田早苗　[illegible]

橋薫桃　[illegible]

沼菖蒲　[illegible]

山五月雨　[illegible]

浦五月雨　日数へてまさるさみたれ行末もなにはかたぬる風そふく

野夕夏草　おなひく葉をこゝろとあつまの野やゆふへの風なるらむ

水辺夏月　六月の月すむ天の川やしはし秋や夜をほしあひの空

待わたる桜の小河の羽衣や夕くれこそき河の月影

川島のなかにをかる月の影めくる夏のあつさに明る夜の松

沙月忘夏　月そ秋まさこの上の霜かれハ一葉もしらぬ庭乃夏くれ

夜のまの竹の葉の花深をいくほと月の庭にすむらん

夜川舟　川よりつとゆる石の火のいつるや舟夕やみのそら

夜蛍　沢をゆくいさり火まてき影深にもえとくる飛蛍のかけ

さのみ子を思ひし人のなきさむや蛍とふかく闇にまよふらん

扇　夕顔の花のかへそ思ひ出るやとれる宿しのきし扇かな

まよひくるをとり立かへりてさて扇に風をおさめしのかけ

荷露成珠　置ぬる葉この上の白露やさえかへりるたまみのくす

朝氷室　さゆる朝のつとめの宿にも氷室なるらんその夏くれ

夏蝉　風さそる梢の露やかるらん月におとろく蝉のこゑ

湊納涼　夕汐よ夜もやめぬの湊風秋をよせくるおきつ舟人

麓納涼　夕風もさときの麓の三輪川に涼むともなくかへる市人

松下水　たえぬ洞の岩し涼しきやまのさゝれを手まの松

林首夏　をしむいし花の林の陰あつくハ茂る夏乃木まの色を

卯花似月　卯花の咲る山路の夕まくれおくもぬ月にうつる里人

郭公遍　むら雨も村山めぐるほとゝぎすいつこゑにか聞くやなくらむ

海時鳥　夕浪によるこゑをもちて入海の松のむら〳〵の山ほとゝぎす

海夏月　おきつ舟こぎゆく月のおもかげもしらぬあまの山かげのうしろ

夏月涼　涼しさは世つねにこえて吹風に雲の浪ちる月のしらなみ
ゆふの風萩の上葉を露とひて風に夜ふかき庭の月影

夏里　こゑをきく行や田中の杜のもりしげる早苗のおくの里人

夏植物　さそふらん杜風いかく桐の葉やまがきをさす子のしるらん

湖辺夏雲　夕立は山のもれなく鳴の海のこぐ舟さへて渡る雲かな

湖辺夏川　六月のやまの川風すゞしくて杜をいざよふ浪ぞすゞしき

夏月　秋の夜にそうつしかへぬ夏の夜の庭のをかしの白き月影　守枝

ふるさとの一こゑはきゝの宿ぞなくともきぬ月ののきのかけ

杜卯花　時そともうつる杜の下のむやゆふかけてくるゝまよふらむ

船路卯花　しらとも見えそこえさぬ川舟のゆきかへりくる岸の卯の花

夜郭公　さむるとていつの夜なるる寝覚をかくれあたらぬ世山ほとゝぎす

林首夏　浅茅原みどりぬ梢の涼しさやふかくは夜をちぎりかりけり

雲外郭公　恨むしも忍くしなかで時鳥こゑする雲のそらゆるかな（さ 类）

山新樹　嵐し梢をくるむ猿のあそぶかの茂る夏かな

蘆橋散　しらぬせし枝おも影よなちそかの空なる苔の袖の遠近

曳菖蒲　浅さ沢によふかくあやめを引ものいまかきき袖にこそしれつ

江五月雨　ふるあまやなしやもしらぬ江の月に誰れるさそれ

夏草　めくる日も風もあをを衣てよとも為つ昔の三秋のよそ

湖上夏月　入るのあやを津ゝみのさゝ波よ出てゝ八月を原しき（の類　ゝ同上）

鵜川舟　かゝとよつゝさもるさて島つるゝきたる波を袁ほ川

橋　蛍　いさゝとる遥のたく縄焼火とやとつゝの橋よ蛍を西ら

夕立早過　なつゝらいるゝつゝ夕立のゝの雲ゝてゝるゝ山の雲

晩夏蟬　夕立八山のゝせゝいゝつゝのゝ秋ゝ八いゝ蛍ゝ川

川の風ゝたゝゝ波家ゝゝゝ波原ゝ塔の波ゝゝ（未類イ）

塔のゝの波ゝゝゝゝゝ秋の秋ゝ八鳴ん

郭公稀　時鳥なゝやゝつゝのゝゝなる八秋ゝゝ八のゝ

嶺上新樹　つゝ秋の袁ゝ緑のゝちゝゝる袁やゝゝ乱の川波

濱五月雨　ゝ秋川波ゝ濱杉の秋ゝゝ乱ん五月雨の波

霊　橋　ゝゝゝ秋ゝ橋のゝゝ秋ゝゝ袁ゝゝ世ゝる

秋ゝの世ゝゝゝ人ゝ橋の氏人のゝゝ神のゝゝゝ

夕立過山　雲ゝゝゝ風ゝ（仁類）ゝゝゝ袁ゝ袁ゝ袁ゝ家の夕立

ゝゝゝ木ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

樹陰流水　涼ゝ八秋の袁ゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

玉ゝゝのゝ川ゝゝゝ涼ゝ八山川ゝゝ秋のゝ波ゝ

六月秡　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

夕盧橋　神のまのたちそなれ時の花の枝よりぬせをとき彩のたちなな
五月雨　あのもりよみそ川そのいのもりそなれつるもつむ五月雨の比
五月雨のふるさとをゆるかさ祇と流川そ里乃ふるゆる
水辺夏月　涼さはまりみぬぼさきれてもあるる月のありぬのこそん
江上蛍飛　なるそ江の芦ふの月もあつの新さへうとそ光蛍ふる
行路夕立　旅人たち宿もつぬ門とよ夕立もとふほとの葉ことを（も奥）
遠夕立　天川もみせの掛るたつ虹のまきりつりの拾よたちの宮
樹陰流水　もりそうつあの下まきりのあるものおこ秋ふ紅そんん
六月秡　夕そ〜人もちまふふ麻のそやたやくあまのたくをかんん
河夏秡　いりさたてよあふる神やふふあそやうあぬ祈の川流

（そ補）

月秡川　さのもりめうるて秡うそる秋やあもむ
閏月夏秡　六月も二の星の契さ人あさのそもつる涼よるもむらすく
菖蒲　旅ようあやめもちぬ人やあん旅なのこの手枕ふ（う奥イ一本）
古砌盧橋　里ふあるあそそ人の神のまふあ〜もそふ旬ようもふ
夏夜月　まふそそそうかふふまもふつのの月そ縁ふもつのそおさ
樹陰蟬　松人のふるもをふたつ蝉もるくなそろをのるふ
鶏川　夏川のあのそふやうかひ舟く新てたふかるるん
夏暁月　神のそよ葉そもさ夏ふなるくふもあそふの影
新樹　松風もそ世のやとりをかそ木のむつそふあるる夏のあふ（こ奥）
聞郭公　ゆあふふ人ふふ山ふるの秋るふふぬるほとふふふ

首夏　卯月の外はやはらぎにけりこのもかのもかつかつ山のもてこもれる

水鶏　出てこしあとの水の川ぞいに別てこしる水のまそとろと

夏　萩　そこはやこもむ蓬ゝ島もしきゝ川海よりいでる舟よりいでく

鶏　川　川ぞいよ新そやきちよもつるうつせよかるよそこの海ぞ

夏　月　かゝみをふるゝ所ゝ波しおきてそこ見る山よ月そ沿そ

文月のいとくもりのいとまもよるこそ沿祓月の沿うさ

瞿麦露　くゝこそあと秋のよくさのむさゝうつこそや呆ん接よの露

五月雨　深きら風のこゝ業もよ形ぬ並のふかさゝれの沿

沿こゝつ出こそなるる太山川こそのまつこそや五月るの沿

江五月雨　おくゝこゝかち人のぬをぬ沿ぬ沿ほこゝほこゝのさゝれ

夏　草　さゆこゝむ咲やなこゝこゝる花花かゝ咲ぬこの夏こ

花花のまむこゝの庭のこ遠むしこ鶏よ寂乃しこむ

夏　鳥　橋姫の伝ぬ沿ぬ字沿のこまつるうきこそ沿よ所呆ん

夏地儀　涼しさ八このよの庭の夕こよこゝもあゝぬ神乃あこの勢

文一本

夏　雲　山こるみ花ゝまゝ人しこゝこの衣こうこゝこ夏やこぬこん

早　苗　少山四呆ぬこ沿ゝのあこんとみ人ぬ庭ゝとるこ苗小

首夏山　法人のこる衣の一こ山落八こゝぬ夏ゝ山こゝの水

路卯花　山ふのこ世をこのむよゝ八こよこゝ月を接こやこん

初郭公　ゝこゝ沿神このこ山のむを業代ゝこゝやこ呆ゝこゝむ

曳菖蒲　神を接こる涙ゝこのあやめ月こゝれこゝむしくこゝみこ水の業

夏　虫　灯籠秋風ふけば消ぬ日もすがら袖まさぬ雨のうへの舟

旅夕立　行つるもさすらふあはれ夕立のさるをぬるその中宿

五月蝉　さつきやみ名のみ山雨のふれかし蔭き梢の蝉のもろこえ

民戸早苗　うたやする民のとまりのもろ苗日かずとるつ苗い

家〻納涼　下萩のそよぐこゆる夕風をうけく涼きみのかたのやど

照　射　射まはるとりの庵をとゝもとてふるの笠あるそ

池　蓮　葉ふを蔵〻咲やもちまの花るともちまとる池のさ底

暮天螢飛　夕雲のとひ社の星ちも天つをあはれ玉のあきしの

旅夕立　里をさき市の仮屋のぬるもくせハくしく夕立のもい

夏月易明　いくみるたの知ぬ行るまの明やもさ月はてのもい

樗　散　あもちる一むらの花をくさくさとおもふ人の心風

沢夏草　鳴鳥のこゑ葉ふくふ芝もこゝ人蔵るそ花の底の水

朝瞿麦　もゝしたせ夏草をとゝ社ぬ篠ふし彩の床夏の雲

螢似玉　いかりとうつゝ玉や星ともみえて秋の忘てこゝ

荷露成珠　池底さゝ人の玉葉のうつゝ玉の珠の露乃ちる風

遠村卯花　まさくやさゝ人ぬ衣一むらを月まてかる里のうの

夏　木　葉ふくるの葉ふ玉つ人樗のもの玉ちくく夏涼さ人

家〻蚊遣火　もゝおろ人紙やの彩のつまゝ人煙を蔵くいふ板を火

雨中螢　雲風もとまゝぬ蔭と夕立の蔭るふませくゝ星ふ

山　葵　あふひゝあひまふ社神山の昔の二葉松ふ人

五月雨雲　もろさ日のそのみすのうちにくるせつさまくさ五月雨の比

五月雨　大きもいつくしやのこをつくしぶきにけるあさこれの比

夏　月　光りてくる月の月のさ松をねよりもよるこの小衣

早　苗　一本ゝ三品この小田のくろの松ゝ苗くるこての袖をとこさ

まをとてよるさをのかりしをとゝ苗ゝ急く袖の小田

聞郭公　時鳥又あひくるこゑやすらへのこる家の法のひとゝもるゝ

池　蓮　花こそ人ちるれいまを形をくまに葉のをる沢の夕の世

氷　雞　いかくゝ松ゝくいのこゝをゝ神の鄙やうちたくゝむ

をとの村の坂を天ゝ水弱かゝ杜の本ゝをとし

菊菖蒲　清ゝくゝ川清のくゝかをるゝあめ川つむ毋のおい風

遠夕立　衣をも風やゝ清くゝをのゝ下ゝ をもちゝやまゝ人

向泉日暮　くゝゝあくゝ家ゝむゝ日ハ色ひもれぬゝつゝ火のゝ

名所夏綾　岩ゝ清ゝ家ゝの川の底ゝ清ゝ夏とゝゝの清ゝのゆゝて

山　蝉　ふる雨の木下ゝゝゝ吹風ゝ清ひおくゝ山のむゝ蝉

泉夏栖　ゝ風も吹飯の清ゝ家ゝ神の国の泉を底にくゝ

卯月郭公　神ゝ家ゝ卯月のゝ色のゝ山ゝくゝいみゝ家ゝ山ゝ家ゝ

照　射　おゝくゝんゝのゝしゝゝくゝゝゝゝゝゝ小鹿の色ひくゝゝ

ゝ家ゝ鹿ゝゝ山の清ゝあゝ家ぬゝしの松ゝ神ゝあゝ松ゝ

蚊遣火　ゝゝゝん家ゝかくゝゝ飯のゝの胡ゝゝめゝくゝの宿

瞿麦　くゝ松のゝくゝ雨ゝゝゝ山ゝゝくゝゝみのなゝゝゝ家

蛍知夜　[illegible]

夕立風　夕立のくもの[illegible]

氷室　[illegible]

夕顔　[illegible]

杜鵑　[illegible]

山中餘花　[illegible]

早苗　さなへ[illegible]

霊橋近砌　[illegible]

五月雨　[illegible]

曳菖蒲　[illegible]

夏草　[illegible]

瞿麦露　[illegible]

新樹　[illegible]

首夏　花もまだちる梢のまつとえて夏ともしらぬのどやかさかな

ひとへのきぬにかへしよりたゞ一夜袖に夏は来にけり

首夏山　くもらぬの手川もたえし桜あさは夏こそよそぬらるみの山

納涼　六月の夕ぐれかゝく涼しの風なきにしもあらぬやとしき

立よらむ木陰も仏なる涼よも清からん汲て涼しさ

秋風の身にしみてみゆかも清く夏さきしたのこまかなる

夏衣身にしらぬの訪しめ身にそ秋のそよの下風

涼しさは奥山の谷の水のこゝろ秋ならまさることをしそるる松の影　さ一本

杜蝉　鳴蝉のこゑよゆるさの杜の木かふるも風の涼めをこゝえる

夏月易明　うたゝ寝の袂のそへもまさる夏月秋ならまさして明るしのゝめ

子相

聞蝉声　鳴つくる蝉のこゑさへ大かた夏もまさる夏の日数を

五月雨　ふる日をば思のいさなはれやて思へるといふ五月雨の比

子杭